

図書館における Twitter の活用に関する実態調査

石過 桃子

近年、インターネット上の情報発信手段としてマイクロブログの一種である Twitter が注目されている。Twitter は、その「簡便性」「速報性」「双方向性」といった特徴から、個人のコミュニケーションツールとしてだけではなく、各種企業や団体の広報などにも利用されている。図書館においても米国を中心に利用が増加している。日本においてもいくつかの利用事例が確認されており、図書館による Twitter の利用は今後増加すると予想されている。

しかし、図書館の Twitter の活用に関する実態調査は、米国では既往調査が存在するものの、日本では行われていない。そこで本研究では、現在、日本の図書館において、どれだけの図書館が Twitter をどのように利用しているのか、新たなメディアがどのように図書館において受容されようとしているのかについて、実態調査を行うことを目的とする。

調査対象は、日本の公共図書館および大学図書館の Twitter アカウントとする。雑誌記事に事例が紹介されているアカウント、Twitter のユーザ検索機能で検索されたアカウントおよび図書館アカウントを多数フォローしているもしくはフォローされていると思われるアカウントを収集し、さらにそのアカウントのフォローユーザ、フォロワーをたどって収集した。調査対象は 2011 年 5 月 25 日から 9 月 12 日までに収集した大学図書館 44、公共図書館 30 アカウントである。以上の図書館アカウントに対し、利用状況とツイート内容について調査を行った。

各図書館の利用率を見ると、大学図書館では国立大学の図書館が、公共図書館では、都道府県立図書館の利用率が高かった。また、ツイート内容を分類した結果、大学・公共図書館どちらも、主なツイートは図書館が所蔵している資料の紹介と図書館への来館を促すための情報であった。しかし、イベント情報や図書館ウェブサービスに関するツイートの割合には違いが見られた。Twitter の RT 機能や@機能を利用したツイートは、大学図書館で 13.1%、公共図書館で 8.5% であり、図書館では Twitter をコミュニケーションツールとしてではなく、情報発信ツールとして利用していると考えられる。

今後の課題としては、ツイート内容によるクラスタ分析を行い、図書館ごとのより詳細な利用傾向を明らかにすることである。また、図書館サービスの中での Twitter の位置づけを明らかにするために各図書館アカウントの運用者に対しアンケート調査を行う必要がある。

(指導教員 池内淳)